令和2年度　職員による学校自己評価（中間評価）

25　長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価　A：十分　B：概ね十分　C：やや不十分　D：不十分　　回答総数　62

評価項目		評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価 A	職員評価 B	職員評価 C	職員評価 D	指標
1	学校づくり	新しい学校づくりの完成に向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育および Ⅳ期SSH のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	高1学年の一人一研究では信州大学から講師を招いてガイダンスを行い、探究活動の意義をレクチャーした。また、野外観察を実施し、インストラクターの指導のもと、自然への視点を実地で学ぶ機会を設けた。高2学年の課題探究、課題研究において、充分な研究時間をとることができなかったが、8月26日には保護者参観のもとで中間発表会を開催し、活発なポスターセッションを行うことができた。(SSH)	探究活動の成果発表に向けて計画的に活動を進めるとともに、探究活動のための時間をどう確保していくか研究を続けていく。	17	36	9		78.2
			在宅学習期間にはオンライン環境を整備し、全学年でオンライン授業やオンラインによる課題配布を実施した。前期終了時にはほぼ例年通りの授業進度を確保することができた。（高校）	オンライン学習環境の更なる整備と、一人一台端末を前提とした学びのあり方について研究を行っていく。					
			6カ年のシラバス（案）の中学の3カ年を作成し、高校との6カ年のつながりの検討を始めた。また、在宅学習期間には、4月の中頃よりオンライン授業を実施。中学の授業にも高校教員も参観、参画し、授業時数を確保するのみならず、充実した学びの場を創ることができた。学校再開後もオンライン学習を継続して実施している。（中学）	各教科の中で6カ年のつながりを考えていく。中高一貫校の特例を生かし、生徒のためになるつながりを考えていく。オンライン学習は、遠方から通学している本校では、特に必要なことなので、継続して行っていく。					
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	全統模試（記述・マーク各1回）、進研模試（記述・マーク各1回）を実施し、学力の到達度を確認した。コロナの関係で宿泊合宿は出来なかった。（高3）	補習への参加や1棟での自習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。	18	43	1		81.9
			休校等の影響で実施出来ない行事も幾つかあったが、オンラインを利用して「屋代ミニ大学」を実施し、可能な限り例年通りの取り組みを行うように努力した。（高2）	オンラインを通じてのオープンキャンパスへの参加や進路の情報提供を継続して、3年生に繋がるキャリア体制の構築を行っていく。					
			文理それぞれのキャリア講演会を7月と9月に実施した。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路に対する意識を深めることができた。例年夏休みに行っていたジョブシャドウイングはコロナウィルス感染症対策の影響で実施できなかったが、その代わりに職業に関するレポートを1学年全員に課して、進路や文理選択を考えるきっかけを提供できた。（高1）	文理選択などを通じて、2年時以降への学習へとスムーズにつながるように指導・支援する。コロナウィルス感染症対策の影響で大学見学は実施できないため、オンラインなどでの大学見学や志望校研究の機会を生徒に提供していく。					
			学年行事「千曲市内探索」「福祉講話」「大学見学会」を実施した。また、昨年度から始めた学びプロジェクトを7月から再開し、卒業生や高校生も参加し、学び合う機会となった。（中学）	コロナウイルスの影響の中でも、できることを見つけ外部機関との連携をはかっていきたい。また、学びプロジェクトについてはさらに共に学び合う機会とするために、形態や内容などを考えていく。					
		進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	学年通信・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。折に触れてキャリア教育担当より話をして進路意識の向上に努めた。在宅学習期間中もプリントとオンラインを用いて学年通信を発行し、進路や学習に関わる情報の提供を行い、生徒が目的をもって生活できるように努めた。（高校）	更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深め、自分の適性を考えるということを意識させていきたい。また個々の生徒に応じて模試、共通テスト、個別試験、推薦に関する情報を更にきめ細かく発信していきたい。	25	35	2		84.3
			学年通信、ホームページを通してキャリアに関する情報を発信した。また、在宅学習期間において、オンラインで先輩の話を聞く会を3回開催した。先輩方も自分の生き方を振り返る機会となり、先輩の生き方に学び合うことができた。(中学)	具体的な進路決定は高校入学後になってくるが、折に触れて自分の適性を考えるということを諸活動の中で意識させていきたい。					
		全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目数を絞らないこと，目標を下げないことなどを指導している。（高3）	模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせたい。	23	37	2		83.5
			模擬試験を定点観測的な役割で利用し、英数国を中心に全体的な学力の向上に努めた。（高2）	高い志望を持たせながらより一層の学力の向上を図りたい。					
			キャリア講演会や職業レポートを通して、大学・文理選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、文理選択説明会や学年通信の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。（高1）	弱点部分を強化して、バランス良くどの教科にも取り組ませて学力の養成を目指したい。					
			考査前に質問講座や学習会の場を設けた。新型コロナウイルスに係る学習指導員配置事業を活用し、国語・数学・英語において、特別講座を開講した。また、夏休み中には、3教科を中心に学び教室を開講した。（中学）	中学から高校への移行をスムーズにできるように指導していきたい。					
		学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、学年指導に生かすとともに複数回の個別面談を設けて細やかに支援を行ってきた。（高3）	生徒のメンタルな部分も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。	20	39	3		81.9
			各考査の成績や春のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。高校1年の段階では特に学習習慣がついているかどうかを確認した。高校2年はオンラインオープンキャンパス等を通じて「大学研究」を行わせ、面談等を通じて、志望大学等を考えさせる指導・支援ができた。（高1,2）	高い進路志望を持たせながら学力の向上を図りたい。一方で、学習習慣がついていない者には面談などをとおして引き続き重要性を伝えていく。					
			各教科では、考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、課題の課し方について検討し、個別の相談や指導を行った。（中学）	中学で身につけておくべき基礎的な力を確実に身につけさせる。(中学)					

※裏面へ

評価項目		評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価 A	職員評価 B	職員評価 C	職員評価 D	指標
3	カリキュラムデザイン	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	オンライン動画等を含めて教員間の授業公開を行い、フィードバックシートで授業者への還元を行った。各教科で共通参観授業を決め、教科会等で授業研究を行った。	教員間でのより有効な授業公開や授業研究のあり方を研究する。	17	36	9		78.2
			第1回授業アンケートおよび自由記述アンケートを実施し結果と分析を共有した。	第2回授業アンケートおよび自由記述アンケートを実施し、授業の質向上に役立てていく。					
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	7月27日には千曲署の協力を得て生徒会を主体とした通学時間に自転車通学者に対する安全運転の呼びかけを行った。また、クラス掲示で道路交通法について周知徹底と安全運転のよびかけをおこなった。職員による交通安全街頭指導も2回行い、生徒の交通安全意識の向上に努めた。	自動車との接触事故が続いている。後期は交通安全強化週間を設け、自身と他者の安全を守れるよう指導を徹底する。	25	36	1		84.7
		いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	コロナ禍における学校生活や集団生活のあり方について繰り返し指導を行った。高1学年では7月に性被害防止教育(キャラバン隊講演会)を実施し、SNSにおける注意点や事例を確認した。	いじめアンケートの実施で生徒の悩みや学校の現状を適切に把握し、必要に応じて迅速に対処していくとともに、日常より生徒の様子を観察し、未然に防げるような体制作りを強化したい。					
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	コロナ禍における人権尊重について、折に触れて生徒に指導をした。9月2日に人権教育職員研修会を行い、本校スクールカウンセラーの吉江志濃先生より「生徒の心を聴く」カウンセリングの初歩について講演をしていただいた。	全校生徒向けの人権教育講演会を実施予定だったが、コロナの影響により、実施が困難となり中止となってしまった。1月28日の人権教育LHRでは「コロナ禍の中で起きている人権問題」について取り上げ、実施予定である。	26	35	1		85.1
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	学年通信・保護者説明会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供を行った。またホームページやオクレンジャーによりコロナウイルス対応等の情報をいち早く知らせるように心がけた。(高校)	ホームページや各種通信の情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。高1学年ではコロナ禍の修学旅行に関して早期から情報提供を行い、家庭で「新しい生活様式下での修学旅行」を考えるための一助としたい。	28	33	1		85.9
			小学6年生親子を対象としたオンラインによる附属中説明会の実施や、中3生体験入学や高校説明会を実施し、できる限り本校の活動を地域に伝える機会を設けた。また、高3文化班の保護者の文化祭見学や高校1,2年の保護者の授業参観を実施し、保護者にも学校の様子を見てもらう機会を設けた。	コロナ感染対応との両立を計りながら、後期の学校行事についても、行事のあり方について検討を重ねていく。					
			学年通信をクラスルームやオクレンジャーに送信し、保護者がいつでもどこでも見られるようにした。また、毎月附属中通信を発行し、屋代高校前駅の屋高の窓に掲示するとともに、県内の小学校にメール送信し、教育活動を発信した。(中学)	携帯電話の持込みについてなど、さらに情報発信したり、情報共有したりしていく。					
全体	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	コロナ対策を踏まえて各行事を実現するために、生徒の自主性を促す効果的な支援ができた。高1学年では教室での応援練習にて委員の指示のもと活動することを支援することができた。高2学年では役員選挙や生徒会新体制確立などの際、係と連携し生徒をサポートした。高3学年では様々な行事の企画・運営や日々の委員会活動を通じ、役員だけでなく多くの生徒が成長した。	引き続き、中高の協力体制や連携のあり方を模索していきたい。	29	33			86.7
		生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	例年と異なる状況においても、生徒が主体となって鳩祭や鳩中祭などの行事の企画・運営をすることで、生徒会活動を日常に近づけることができた。	全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。					
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	コロナ禍において日々の消毒や換気を徹底するとともに、生徒にも手指消毒やマスクの着用、人との距離など感染防止の徹底を指導した。限られた予算の中で使用頻度の高い清掃用具・用品を購入した。	引き続き感染防止対策用品の補充と生徒の意識の向上に努める。また、用具の点検を定期的に行い、計画的補充が必要である。	21	34	7		80.6
			コロナ禍におけるゴミのマナーについて指導を行い、生徒の意識を高められた。	落ち葉等の外掃に力を入れる。					

指標は、A(4点)， B(3点)， C(2点)， D(1点) として最高100点となるように換算しました。　〔換算式〕　25×（4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数）÷総数